

2012年1月5日

昭和電線ホールディングス株式会社

あけましておめでとうございます。

昨年を振り返りますと、東日本大震災による甚大な被害や放射能汚染問題といったかつて経験したことのない環境にさらされる中で、世界的な景気減速が生じるなど政治、経済の面からも変化の激しい年でありました。また、当社グループにとっては、中期経営計画「GLOBAL SWCC 2012」を推進する中で、中国の長年の事業パートナーである富通集団と業務提携、資本提携を行い、中国を中心にした海外展開を加速いたしました。

現在、来年度の予算編成と同時に2012年度から2014年度までの中期経営計画の見直しを進めています。現在の中期経営計画と考え方は大きく変えませんが、将来にむけた方向性を明確にし、様々な環境変化に対応できる体制を築いていきたいと考えます。基本的な考え方は3点となります。

1点目は、事業規模の拡大は国内では難しいとの判断から海外を中心に事業展開を行い、利益創出も併せて海外事業の確実な立ち上げを行っていきます。2点目として、各事業の規模の拡大を目指します。メーカーとして一定以上の事業規模が確保できなければ利益の創出は出来ないと考えています。3点目は、いかに事業環境が変わっても低炭素社会に向けた歩みは世界的に進んでいくとの観点から、太陽光発電や風力発電に対応する既存製品の展開を行うとともに超電導や熱電変換装置および非接触給電といった環境調和型の製品開発にスピード感をもって取り組んでいきます。

この中期経営計画を実行、達成するためには、日々の継続した業務変革が不可欠であり、また、安全・品質面からの信頼の継続が必須であることは言うまでもありません。内部統制への対応についても、独禁法の遵守を中心に進めてきましたが、そのほかにも法令違反だけでなく世の中の常識に反するような行為は根絶していくという強い意思を持って進めてまいります。

最後になりますが、以上のような行動をしていくために必要な教育や組織体制の見直し、人材の活用等についても積極的に展開していきます。そして、今年を海外も含め当社グループの事業をしっかりと育てていくスタートの年と位置づけ、当社グループの将来に向けた明るい展望を描けるよう全従業員一丸となって取り組んでいくことを期して新年の挨拶といたします。

昭和電線ホールディングス株式会社

取締役社長 相原 雅憲

この件に関するお問合せ先

経営企画部 IR・広報グループ 菅井 幹夫 TEL 03-5532-1911